

進化経済学会

ニューズレター No. 49

November. 2020

進化経済学会事務局

〒171-8501東京都豊島区西池袋3-34-1立教大学経済学部

荒川章義

[03-3985-2345/a-arakawa@rikkyo.ac.jp](mailto:a-arakawa@rikkyo.ac.jp)



Stari Most in the Old City of Mostar, Bosnia and Herzegovina

撮影：西洋

+++++++目次+++++++

2020 年度オータムカンファレンスを終えて

2020 年度本大会情報

第 25 回進化経済学会オータムカンファレンス理事会議事録

進化経済学会学会賞・進化経済学会奨励賞規程

学会賞選考にかんする細則

進化経済学会賞・奨励賞選考報告

2020 年度進化経済学会賞授賞理由

2020 年度進化経済学会奨励賞授賞理由

会計報告

進化経済学会内仮想通貨 JAFEE の検討について

進化経済学会役員選挙についてのお知らせ

会員異動

+++++

2020 年度オータムコンファレンスを終えて

第 25 回静岡大会実行委員

遠山弘徳・横田宏樹（静岡大学）

去る 9 月 19 日、Zoom によるオンラインにてオータムコンファレンスを開催いたしました。「現代資本主義の変容と地域の制度設計」というテーマのもとに、地域社会経済の自立性や主体性を創出するための制度設計に関して、3 名の方々の講演とパネルディスカッションを行いました。

第 1 講演は、山下啓道氏（静岡県経済産業部商工業局地域産業課）による「静岡県の地域産業の振興に向けた施策」でした。静岡県の地場産業の紹介、地場産業が直面する諸問題、そしてそれらに対する諸政策や課題について行政的立場から問題提起をして頂きました。

第 2 講演は、李皓氏（静岡大学情報学部行動情報学科）による「仮想市民個票の合成に基づく将来人口推定とシミュレーションによる社会経済システムのデザイン」でした。多くの地方社会で問題となっている人口減少問題に対して、エージェントベースシミュレーションに基づき李氏らが構築した自然動態と社会動態を考慮した人口推定モデルを使いながら、静岡県の調査を中心に市民と産業の両側面から社会経済システムの制度設計について論じて頂きました。

第 3 講演は、立見淳哉氏（大阪市立大学大学院経営学研究科）による「《豊穰化の経済》における地場産業製品への価値の再付与」でした。現代資本主義が新たな精神の時代へと転換するなかで、「豊穰化の経済」という分析フレームワークを用い、地場産業製品の高付加価値化とその手段・仕組みについて、調査をされた様々な事例を紹介しながら方法論的および実証的に論じて頂きました。

3 名の方々の講演およびパネルディスカッションを通して、グローバル・ナショナル・ローカルという社会経済活動の空間が重層的に複雑に混じり合った現代の資本主義において、地域という空間における自律的な社会経済システムの構築の必要性への認識あるいは再認識が深まったと思います。地域という社会経済単位が分析対象としてこれまでよりも明確に出現した現代資本主義分析に対して、われわれは理論研究や実証研究をどのように進化させて

いくことが出来るのでしょうか。3月の本大会においても、引き続き考えていきたいと思えます。

第25回進化経済学会静岡大会は2021年3月27-28日に静岡大学静岡キャンパスにて行われる予定です。Call for Papersへの締め切りを11月29日(日)に延長しました。多くの学会員の報告および参加を静岡大会実行委員一同お待ち申し上げます。

2020 年度本大会情報

第 25 回静岡大会実行委員

遠山弘徳・横田宏樹（静岡大学）

2020 年度大会テーマ

「現代資本主義の変容と地域の制度設計」

大会趣旨

グローバル化の下で国による制度的影響力が問い直され、国民的論理に制約づけられた社会経済的領域として位置づけられてきた地域は、自立的領域として地方にとって普遍的な問題とそれぞれに固有の問題を解決するために多様な制度設計が必要とされている。

しかし、これまで地域の制度設計は主に国家によって担われ、地域は生活する場という空間における役割分担を加速させた結果、社会経済システムの世界と生活空間が乖離することになった。

オータムコンファレンスおよび本大会では、現代資本主義の変容という文脈のなかに位置づけながら、地域を一つの社会経済システムの単位として捉え、制度設計や全体としてのメカニズムの構築について理論的および実証的により考察を深めるべく、進化経済学という観点から論じることとしたい。

日時：2021 年 3 月 27 日（土）・28 日（日）

会場：静岡大学静岡キャンパス（予定）

進化経済学会会員みなさま

第25回進化経済学会静岡大会事務局からのお知らせです。「報告募集」申し込み締め切りを11月17日（火）としておりましたが、2020年11月29日（日）まで延長いたします。皆さまからの多くの報告希望をお待ちしております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

なお、当事務局のミスで、今回、Call for Papersには申し込みフォームをご用意しておりません。混乱させ、申し訳ありませんでした。Word等にて必要事項をご記入の上、添付ファイルにて大会メールアドレス (jafee2020shizuoka@gmail.com) までお送りくださるようよろしくお願い致します。

第25回進化経済学会オースタムコンファレンス理事会議事録

日時：2020年9月19日（土）12:00~12:50

場所：ZOOMによるオンライン開催

出席者：西部忠（会長）、磯谷明德（副会長）、遠山弘徳（大会実行委員長）、浅田統一郎、有賀裕二、池田毅、依田高典、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、吉地望、黒瀬一弘、瀬尾崇、徳丸宣穂、鍋島直樹、西洋、服部茂幸、原田裕治、廣瀬弘毅、福留和彦（会計）、藤本隆宏、中原隆幸、橋本敬、八木紀一郎、吉田雅明、荒川章義（事務局）

欠席（委任状あり）：澤邊紀生、塩沢由典

欠席：青山秀明、佐々木啓明、

1. 報告

1. 1 会勢報告

荒川事務局長より会勢報告が行われた。

1. 2 第25回オースタムコンファレンス参加状況について

遠山大会実行委員長より、第25回オースタムコンファレンス参加状況について、報告があった。

1. 3 日本経済学会連合報告

池田担当理事より、開催されていない旨報告があった。

1. 4 各部会報告

ニュースレター掲載に付き省略。

1. 5 次年度開催校について

荒川事務局長より次年度開催校が同志社大学になる旨報告があった。

2. 議題

2. 1 入退会について

荒川事務局長より、入会希望者の紹介が行われ、これを了承した。

2. 2 2019年度会計決算報告について

福留会計担当理事より2019年度の会計決算報告が行われ、これを了承した。

2. 3 学会賞の選定について

岡選考委員会委員長の報告書により、今年度の学会賞を森岡真史氏の論文 'The basic theory of quantity adjustment', 'Dynamic properties of quantity adjustment process under demand forecast formed by moving average of past demands', 'Extensions of model analysis of the quantity adjustment process in several directions' (Shiozawa, Y., Morioka, M. and Taniguchi, K. eds., Microfoundations of Evolutionary Economics, Springer 2019 のそれぞれ第3章 pp.139-194、第4章 pp.195-255、第5章 pp.257-289)に基づいて授与することが提案され、これを了承した。

2. 4 進化経済学会奨励賞の選定について

岡選考委員長の報告書により、進化経済学会奨励賞を、村上弘毅氏の論文 'Existence and uniqueness of growth cycles in post Keynesian systems', Economic Modelling 75, 2018, pp.293-304, 'Monetary policy in the unique growth cycle of post Keynesian systems', Structural Change and Economic Dynamics, 52, 2020, pp.39-49 に基づいて授与することが提案され、これを了承した。

2. 5 進化経済学会学会賞・奨励賞細則改正について

荒川事務局長より、進化経済学会学会賞・奨励賞の細則に、「1 1. 選考委員が著者になっている著作は、選考委員の任期中は審査対象としないものとする」を追加することが提案され、これを了承した。

2. 6 フェローの選出について

吉田理事・フェロー選考委員会委員より、有賀裕二会員と藤本隆宏会員をフェローに推挙する旨報告があり、審議の結果これを了承した。

2. 7 次期会長・副会長・理事選挙委員会の設置について

荒川事務局長より、次期会長・副会長・理事選挙委員会委員を、中原隆幸理事、原田裕治理事、西洋理事に依頼したい旨提案され、これを了承した。

2. 8 次期副会長候補並びに理事会推薦理事について

磯谷副会長より、次期副会長候補並びに理事会推薦理事について提案があり、これを了承した。

2. 9 EIER 編集体制の再編

八木 EIER Management Editor より、次年度以降の EIER 編集体制に関して、Management Editor を植村博恭理事、Associate Editor を、有賀裕二理事、藤本隆宏理事、八木紀一郎理事とすることが提案され、これを了承した。

2. 10 進化経済学会内仮想通貨 JAFEE の検討について

荒川事務局長より、進化経済学会内仮想通貨 JAFEE について、会計処理の方法や用途などに関して中間報告があり、審議の結果これを了承し、最終的な制度設計は本大会の理事会で提案・承認の後、総会に諮られることとした。

2. 11 若手セミナーに関する提案について

瀬尾若手セミナー担当理事より、若手セミナーの今後の在り方に関して提案があり、西部会長、磯谷副会長、若手セミナー担当理事および委員、荒川事務局長の間で継続的に議論を行うこととした。

3. その他

福留理事より、学会としては学会報告された論文を収録した Proceedings を作成することをしていないが、若手会員のためには作成した方がよいのではないかという意見が出され、引き続き検討することとなった。

文責：事務局担当理事 荒川章義

第1条【趣旨】進化経済学の発展に貢献する会員の研究を顕彰するため、「進化経済学会学会賞 Prize of Japan Association for Evolutionary Economics: JAFEE Prize」を、また、進化経済学の発展に貢献する45歳以下の若手会員の研究を顕彰するため、「進化経済学会奨励賞 Young Researcher Award of Japan Association for Evolutionary Economics: Young Researcher JAFEE Award」を設ける。

第2条【受賞】原則として学会賞および奨励賞をそれぞれ年1回、年次大会に合わせて賞状と副賞を授与し、*Evolutionary and Institutional Economics Review* および学会サイトで授賞理由とともに公表する。

第3条【選考対象】応募締め切り日を基準に過去3年以内に公表された会員の研究成果を示す著作物（論文、著書など）を自薦・他薦によって受け付けて選考の対象にする。この推薦は、当該著作物の公表後3年間のあいだは有効である。

第4条【選考委員会】推薦された選考対象著作物の受理および選考は、理事会によって指名される会員4名からなる学会賞・奨励賞選考委員会がこれをおこなう。委員の任期は2年とし、毎年その半数を交代させる。委員長は任期1年で互選による。

第5条【選考手続き】

- (1) 選考委員会は「応募要項」を作成し、会長の承認を得て公表する。
- (2) 会員は選考対象となる著作物を推薦理由を付して選考委員会に推薦できる。*Evolutionary and Institutional Economics Review* に掲載された会員の Article および Note は自動的に選考対象となる。
- (3) 選考委員会は必要に応じて、委員以外の会員・非会員に専門的評価を求めることができる。
- (4) 選考委員会は合議の上、授賞対象候補となる著作物を選定する。
- (5) 選考委員会は選考対象著作物の点数と委員全員の署名を付した「選考報告」と「授賞理由案」を作成し、理事会に提出する。

(6) 理事会は選考委員会の報告を受けて、最終決定をおこなう。

第6条【規定の改廃】本規定の改廃は、理事会の提案にもとづき、会員総会で決定する。

付則1. 「学会賞選考にかんする細則」は理事会で定め、会員に周知する。

2. 第4条の規定にかかわらず、発足時の選考委員会は任期2年の委員2名と任期1年の委員2名で構成する。

3. 本規定は、2016年3月27日から施行する。

4. 本改正規定は、2019年9月12日から施行する。

学会賞選考にかんする細則

2020年9月19日改正

1. 選考対象となるのは、ISBN あるいは ISBN が付されうるような、公刊された著書、公的にアクセスできる雑誌に掲載された論文、インターネット上で DOI を付して公表されている著作物である。最終的な公表とみなせないワーキング・ペーパー、ディスカッション・ペーパー、コンファレンス・ペーパーなどのセミ・パブリケーションは除外する。
2. 共著の著作物も対象となるが、共著者の全員が進化経済学会の会員でなければならない。
3. 推薦著作の言語は日本語ないし英語に限る。
4. 推薦は1会員各回1点に限られる。ただし同じ著者による連続性のある著作であるならば、複数の著作物をまとめて1点として推薦できる。また、一度受け付けられた推薦は当該著作物の公表後3年間は有効である。
5. 選考委員会の委員名と応募要項は、学会の ML とサイトで会員に周知をはかる。
6. 推薦者は、推薦理由書とともに推薦対象著作物を2部(コピーあるいは電子ファイル可)を選考委員会に送付する。この著作物は原則として返却されない。
7. 委員以外の会員・非会員に専門的評価を求めた場合、評価者の名前は推薦者・被推薦者に対して秘匿する。また評価者に対して謝金を支払うことができる。
8. 選考委員会の合議はインターネット上でおこなってもよいが、理事会への選考報告書には委員全員の署名を必要とする。
9. 歴代委員長は、推薦理由書と送付された著作物を原則として3年間保存する。
10. 進化経済学会奨励賞の対象者の年齢は、当該年度の4月1日で計算する。共著の場合には主たる著者が45歳以下とする。主たる著者は複数でもよいが、全て45歳以下でなければならない。主たる著者が誰かは、執筆者全員による承認による。
11. 選考委員が著者になっている著作は、選考委員の任期中は審査対象としないものとする。

付則

- 1) 本細則は2016年3月27日から施行する。
- 2) 本改正規定は、2020年3月30日から施行する。
- 3) 本第2次改正規定は、2020年9月19日から施行する。

2020年9月17日

進化経済学会学会賞・奨励賞選考委員会

委員: 岡敏弘(委員長)、植村博恭、服部茂幸、生稲史彦

本委員会が学会賞選考にあたって検討の対象にしたのは、*Evolutionary and Institutional Economic Review*に掲載された32点の論文と、自薦・他薦による論文2点、書籍2点の計36点である。本委員会は、委員会外部の専門家の評価を求めることも含めて、上記対象著作を検討し、2020年度の学会賞を、森岡真史会員に、論文`The basic theory of quantity adjustment, `Dynamic properties of quantity adjustment process under demand forecast formed by moving average of past demands', `Extensions of model analysis of the quantity adjustment process in several directions' (Shiozawa, Y., Morioka, M. and Taniguchi, K. eds., *Microfoundations of Evolutionary Economics*, Springer 2019 のそれぞれ第3章pp.139-194、第4章pp.195-255、第5章pp.257-289)に基づいて与え、奨励賞を、村上弘毅会員に、論文`Existence and uniqueness of growth cycles in post Keynesian systems', *Economic Modelling* 75, 2018, pp.293-304, `Monetary policy in the unique growth cycle of post Keynesian systems', *Structural Change and Economic Dynamics*, 52, 2020, pp.39-49に基づいて与えることが適当であるという結論に達した。

以上

2020年度進化経済学会賞授賞理由

進化経済学会会長西部忠殿

進化経済学会学会賞・奨励賞選考委員会

本年度の進化経済学会賞の審査が終了し、審査結果が出ましたのでご報告申し上げます。

授賞論文タイトル：

- ・ The basic theory of quantity adjustment
- ・ Dynamic properties of quantity adjustment process under demand forecast formed by moving average of past demands
- ・ Extensions of model analysis of the quantity adjustment process in several directions.

Shiozawa, Y., Morioka, M. and Taniguchi, K. eds., *Microfoundations of Evolutionary Economics*, Springer 2019

の第3章(pp.139-194)、第4章(pp.195-255)、第5章(pp.257-289)

著者名：森岡真史

授賞理由：

森岡氏の3本の論文は、Shiozawa, Y., Morioka, M. and Taniguchi, K. eds., *Microfoundations of Evolutionary Economics*, Springer 2019の第3章、第4章、第5章です。本書は全体として、アロー＝ドブリュー流の新古典派一般均衡理論で想定されているミクロ的基礎に代わる、進化経済学のためのミクロ的基礎を与えることを意図しています。進化経済学のためのミクロ的基礎とは、情報処理能力や計算能力に限界をもつ経済主体(特に企業)が、現実の時間の中で、実際にどれだけ売れるかわからない状況で、見込みで原料など投入物を仕入れ、見込みで生産を行い、売れるだけ売り、実際に売れた量に応じて、次の見込みを改定し、また生産を行うという行動をするとき、投入産出の網の目からなる経済全体で、需要が供給によって満たされるという状態が安定して実現していくのかを問い、それに答えるということです。森岡氏のこの課題への貢献は、そのような調整過程が安定である条件を、数学的に厳密に示したことです。

第3章の`The basic theory of quantity adjustment'は、数量調整の基本枠組を示す導入章です。資本主義が売り手競

争優位の経済で需要制約の下にあること、不確実な需要という状況での在庫(製品在庫と投入物在庫の両方)の役割、投入産出連関の中での調整の時間構造が示され、数量調整の学説史と、ケインズ理論へのこの枠組の示唆も解説されています。

第4章`Dynamic properties of quantity adjustment process under demand forecast formed by moving average of past demands'が中核を成す章です。第3章でアウトラインが示された企業の意思決定が厳密に定式化され、過去の販売量の移動平均によって需要予想を改訂し、在庫切れリスクをある範囲以下に抑えるよう生産し、投入物を発注するという想定の下で、変動する最終需要に対する生産が安定化する条件があることが示されます。

第5章`Extensions of model analysis of the quantity adjustment process in several directions'は、第4章のモデルの一般化で、仕掛品在庫の存在、生産量調整の不完全さや遅れの存在、部門内企業の多様性の存在を考慮しても主たる結論に変更をもたらさないことが示され、さらに、在庫切れを起こした場合について分析されています。

新古典派の一般均衡では、生産が始まる前に需要と供給とが一致するので、上のような現実時間の中での数量調整の安定性を問うという意味のミクロ的基礎は要りませんでした。それを必要としないというところに新古典派の根本問題があると進化経済学は指摘してきましたが、まさにこの基礎を得たということは、進化経済学にとって画期的な成果です。

以上の理由で、森岡氏の一連の論文を西部会長ならびに理事会に、本年度の進化経済学会賞最終候補として推薦します。

2020年9月17日

2020年度進化経済学会奨励賞授賞理由

進化経済学会会長西部忠殿

進化経済学会学会賞・奨励賞選考委員会

本年度の進化経済学会奨励賞の審査が終了し、審査結果が出ましたのでご報告申し上げます。

授賞論文タイトル：

- ・ `Existence and uniqueness of growth cycles in post Keynesian systems', *Economic Modelling*, 75, 2018, pp.293-304.
- ・ `Monetary policy in the unique growth cycle of post Keynesian systems', *Structural Change and Economic Dynamics*, 52, 2020, pp.39-49.

著者名：村上弘毅

授賞理由：

村上氏の2本の論文は、一連のものですが、第1の`Existence and uniqueness of growth cycles in post Keynesian systems'は、予想利潤率によって投資(資本成長率)が決まるというケインズ的な投資行動を仮定したポスト・ケインジアン成長モデルで、現実利潤率と資本成長率との組が周回するリミット・サイクルが一意に存在することを示すことによって景気循環を説明するものです。現実利潤率が予想利潤率を上回ったら予想を引き上げ、逆なら逆という予想改訂が成長率に影響を与え、他方、資本成長率が自然成長率を上回ったら資本労働比率が上がり、逆なら逆という関係が、成長率が現実利潤率を決める関係をシフトさせるという2つの力が、現実利潤率と資本成長率との組の循環を生み出すわけですが、予想改訂が十分速ければ、そのような循環が一意に存在することを村上氏は数学的に証明しました。

2つめの`Monetary policy in the unique growth cycle of post Keynesian systems'は、このモデルに反循環的な金融政策を加えたもので、その場合もやはり一意のリミット・サイクルが存在することを証明し、さらに、資本稼働率に応じて利子率を変える政策が適度な場合には、サイクルが消滅して均衡が大域的に安定になることを証明しました。複雑な関係の中に、景気循環論・成長論にとって意味のある性質を見出して、それを厳密に証明する村上氏

の手腕の高さが、これらの論文に示されています。

以上の理由で、村上氏の一連の論文を西部会長ならびに理事会に、本年度の進化経済学会奨励賞最終候補として推薦します。

2020年9月17日

会計報告

2020年9月19日
 会計担当理事・福留 和彦

1. 2019年度 収支計算書決算報告

1-1. 収入（会費、大会収入）

■正会員当該年度会費から賛助会員会費まで全てを含めた会費収入の推移（5カ年）

2015(平27)年度	2016(平28)年度	2017(平29)年度	2018(平30)年度	2019(令1)年度
3,622,000円	3,747,000円	3,462,000円	3,552,000円	3,425,000円

■会費収入会員種別（件数。賛助会員と準会員を除く）

年度	正会員	前受会費	学生会員	正会員	学生会員	終身会員
	当年度分	(正会員)	当年度分	過年度分	過年度分	
2018	288件	3件	19件	36件	7件	3件
2019	285件	6件	20件	24件	5件	3件
増減 (金額)	▲3件 (-3.0万円)	3件 (+3.0万円)	1件 (+1.0万円)	▲12件 (-12.0万円)	▲2件 (-2.0万円)	0件 (±0.0万円)

■第24回仙台大会収入

17万9,504円（内訳：オータムコンファレンス4万5,500円、本大会13万4,004円）

〈参考〉第23回名古屋大会74万4,001円（内訳：オータム12万2,000円、本大会62万2,001円）

1-2. 支出

■構成比(対当期支出合計：2018年度3,928,437円 → 2019年度5,374,875円 ※3,174,785円)

年度	英文誌 刊行費	大会費 (オ+ 本)	事務委 託費	部会補 助費	事務用 品費	経済学会 連合会費	謝金	送金 手数料	通信費	その他 (学会賞 等)
2018	55.5%	26.0%	15.1%	1.0%	0.2%	0.9%	0.3%	0.2%	0.04%	1.3%
2019※	68.7%	9.6%	18.3%	1.1%	0.3%	1.1%	0.5%	0.3%	0.05%	0.05%

全体の96.6%

■英文誌刊行費(シュプリンガー・ジャパン)：438万円（消費税込、2020年度分220万円先払い含む）

■事務委託費(国際文献社)：575,592円(2017年度) → 592,779円(2018年度) → 582,346円(2019年度)

〈参考〉業務管理料(12万円/年) + 管理基本料(780円/人・年 × 会員410人 = 319,800円) +
 消費税(43,788円/年) = 483,588円（事務委託費総額の約83%）

■第24回仙台大会大会費

30万5,289円（内訳：オータムコンファレンス17万9,917円、本大会12万5,372円）

〈参考〉第23回名古屋大会

101万9,678円（内訳：オータム32万4,873円、本大会69万4,805円）

1-3. 仙台大会（第24回大会）収支

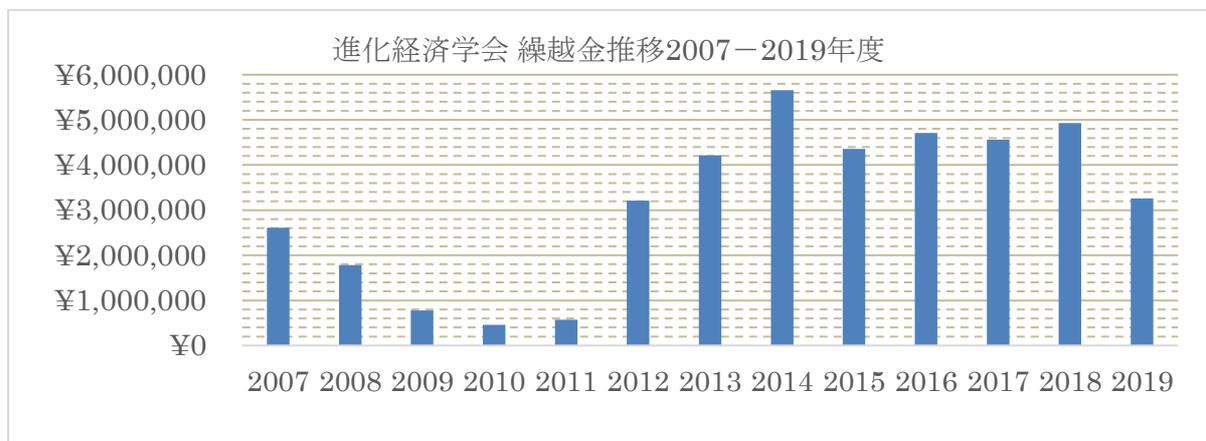
■大会実行委員会の努力により、オータムコンファレンス・本大会とも下記の通りの結果となった

・オータム：予算40万円+大会収入4万5,500円=44万5,500円			
支出17万円9,917円	差額26万5,583円	———	差額合計
・本大会： 予算70万円+大会収入13万4,004円=83万4,004円			└→97万4,215円
支出12万円5,372円	差額70万8,632円	———	(学会口座返納済)

2. 繰越金推移（下図）

■2018年度4,929,216円から2019年度3,258,862円に減少（当期差益 -1,670,354円）

※シュプリンガーへの先払いを除外：5,458,862円に増加（当期差益 + 529,646円）



3. モノグラフ・シリーズの印税収入（2019年1月1日～2019年12月31日）

3-1. 経緯

シュプリンガー側の印税振り込み忘れ

会計担当（福留）とE-mailで交信（to/from Uwe Scherer, Springer Nature Royalty Coordinator）

3-2. 要約（詳細は添付別紙）

173,214円 (= 2,146.12SGD × JPY/SGD 80.71)

Springer Nature Singapore Pte.,Ltd. 一振り込み→ 学会口座（りそな銀行）

リフティング・チャージ（為替取扱手数料=max{送金額×0.05%, ¥2,500}）

170,714円（手数料を差し引きした学会口座への入金。9月10日入金確認済み）

→ 2020年度収入に計上予定

【内訳】 ※SGD：Singapore Dollar ST：Sub Total El.：Electronic Pr.：Print

vol.10：Emerging Risks in a World of Heterogeneity…85.08SGD（ST：El.8.32, Pr.76.75）

vol.3：Social Preference, Institution, and Distribution…291.43SGD（ST：El.145.82, Pr.145.62）

vol.7 : A New Construction of Ricardian Theory of International Values	··· 362.32SGD (ST : El.175.94, Pr.186.38)
vol.?? : J. M. Keynes Versus F. H. Knight ···········	192.68SGD (ST : El.104.31, Pr.88.37)
vol.5 : Contemporary Meanings of John R. Commons's Institutional Economics	··· 343.80SGD (ST : El.175.13, Pr.168.67)
vol.8 : The Evolving Relationship between Economy and Environment	··· 174.46SGD (ST : El.99.36, Pr.75.10)
vol.9 : Economic Foundations for Social Complexity Science	··· 234.76SGD (ST : El.125.70, Pr.109.06)
vol.14 : Contemporary Capitalism and Civil Society	··· 182.18SGD (ST : El.95.27, Pr.86.91)
vol.16 : The new Japanese Firm as a Hybrid Organization	··· 235.73SGD (ST : El.113.82, Pr.121.91)
vol.?? : Evolutionary Games with Sociophysics ·········	184.04SGD (ST : El.103.78, Pr.80.26)
vol.?? : Interacting Complexities of Herds and Social Organizations	··· 98.09SGD (ST : El.47.99, Pr.50.10)

進化経済学会内仮想通貨 JAFEE の検討について

日時：2020年9月3日（木）20:00~21:30

場所：ZOOM によるオンライン会議

出席者：西部忠（会長）、磯谷明德（副会長）、有賀裕二（EIER）、八木紀一郎（EIER）、澤邊紀生、廣瀬弘毅（監査）、福留和彦（会計）、荒川章義（事務局）

- ・ JAFEE は事務局が発行し、事務局、大会実行委員会、EIER の3者が JAFEE の口座を持ち、管理する
- ・ EIER の Editor や Reviewer、大会実行委員会委員、などに JAFEE を付与する。
- ・ JAFEE は年度末にまとめて配布する
- ・ JAFEE は大会の懇親会費に使用することができる
- ・ その際、予め予算の支出項目に JAFEE により支払われる懇親会費を計上しておく（10万円程度）
- ・ また JAFEE は会員間で自由に譲渡することができる

進化経済学会役員選挙についてのお知らせ

進化経済学会選挙管理委員会

原田裕治（委員長）、中原隆幸、西洋

今秋、第8回進化経済学会役員選挙を行います。投票は郵送で行われます。今回は2021年4月1日より2024年3月31日までの3年間任期の役員選挙にあたり、(1)会長選挙、(2)副会長選挙、(3)理事選挙を行います。期限は2020年12月15日必着とします。

間もなく、会員名と所属を記載した会員一覧表（選挙権者・被選挙権保有者名簿）、ならびに(ア)投票用紙、(イ)投票用封筒、(ウ)返信用封筒、が郵送されてきます。投票要領ならびに郵送要領を熟読の上、正確に投票をお願いいたします。

（「役員選挙細則」については、学会サイト <http://www.jafce.org/> をご覧下さい。）

会員異動

1. 会勢

2020年9月11日時点

進化経済学会会勢状況	
個人会員	351 (入会4 休会4 含む)
個人終身正会員	15
院生会員	46 (休会3 含む)
賛助会員/団体	0
賛助会員/特別	0
招待会員	2
個人準会員	1
415	

2. 退会者

会員名	フリガナ		所属機関名	会員種別
溝端 佐登史	Mizobata	Satoshi	京都大学経済研究所	個人会員
半田 正樹	Handa	Masaki	東北学院大学経済学部	個人会員
篠原 正人	Shinohara	Masato	東海大学海洋学部	個人会員
井上 泰日子	Inoue	Yasuhiko	日本航空人事部研究開発室	個人会員
岩崎 葉子	Iwasaki	Yoko	アジア経済研究所地域研究センター 中東研究グループ	個人会員

辻野 正訓	Tsujino	Masanori	株式会社NTT ドコモ コンシューマビジネス推進部	個人会員
上岡 拓矢	Ueoka	Takuya	群馬大学 社会情報学部	学生会員

3. 前回入会承認者

会員名	フリガナ		所属機関名	会員種別	推薦会員
横出 俊一	Yokode	Shunichi	和歌山県庁	個人会員	吉田 雅明先生 大坂 洋先生
伊藤 真利子	Ito	Mariko	東京大学大学院 情報理工学系研究科	個人会員	大西 立顕先生 荒川 章義先生
三好 宏治	Miyoshi	Koji	神戸学院大学 (非)	個人会員	宇仁 宏幸先生 藤田 奈々子先生
大野 隆	Ohno	Takashi	同志社大学 経済学部	個人会員	佐々木 啓明先生 黒瀬 一弘先生

4. 入会希望者

会員名	フリガナ		所属機関名	会員種別	推薦会員
松本 賢	Matsumoto	Ken	中央大学大学院	学生会員	浅田 統一郎先生 瀧澤 弘和先生
荒川 清晟	Arakawa	Kiyoari	東京大学大学院学際情報学府 学際情報学専攻	学生会員	大西 立顕先生 川畑 泰子先生

野寄 修平	Noyori	Shuhei	東京大学	学生会員	大西 立顕先生 川畑 泰子先生
倉本 啓之	Kuramoto	Hiroyuki	金沢大学大学院人間社会環境 研究科	学生会員	井手 明先生 瀬尾 崇先生

5. 種別変更

会員名	フリガナ		変更内容	所属機関名
逸見 彰彦	Henmi	Akihiko	個人会員→終身会員	中央大学商学部

6. 休会

会員名	変更箇所	所属名
後藤 和子	個人会員	埼玉大学経済学部
川口 正樹 (海外赴任中休会)	個人会員	外務省アジア局東南アジア第一課
徐 龍燮(海外在住中休会)	学生会員	(元) 京都大学大学院経済学研究科
橋本 千津子	学生会員	北海道大学大学院経済学研究科
平野 耕一	学生会員	リバプール大学
中嶋 眞澄	個人会員	鹿児島国際大学経済学部
石田 聡子	個人会員	岡山大学大学院社会文化科学研究科

編集後記

会員の皆様に進化経済学会ニュースレター第 49 号をお届けいたします。ニュースレター作成担当理事として、3 年間、合計 6 号を発行してまいりました。この間、原稿をお寄せいただいた会員の皆様、そしてニュースレターをお読みくださった会員の皆様、全ての方々にお礼を申し上げます。

インターネットが完備され、現在必要な情報はすぐさま発信することができることは言うまでもありません。アカデミックな活動においても、情報の質の確保とともに発信のスピードも重要になっております。こうした中、ニュースレターでしかできないコンテンツの提供を模索してまいりました。理事会議事録や会勢、部会報告などなど、これらは、もちろんここでしか開示されない情報です。しかし、こうしたルーティン的な情報開示を超えて、学会の情報共有の場として、このニュースレターにしかない編集上のオリジナリティがあったかと問われたら、心もとないというのが本音です（表紙に掲げた旅の写真くらい?）。編集後記を振り返ってみると私自身「ニュースレターに作成についても、ルーティンからイノベーションが生み出されるよう」とか大言壮語を申しておりながら、結局はルーティンに尽きてしまったのも、ニュースレター作成者としての私の力量が足らなかったことに他なりません。これについては会員の皆様に平に謝りたいと存じます。

次号は 50 号という節目にあたります。これまで刊行に尽力されてきた理事のおかげでニュースレターにも歴史が形成されつつあります。ルーティン的な情報の提供はもちろん重要ですが、学会としてもこのレターに何を求めるのか、ホームページやメーリングリストとどのように補完的に使っていくのか、改めて考えるべき時期に差し掛かっているのではないのでしょうか（いやはや、わたしも 50 号という記念号を見越して少しは何か企画しておくべきだったけれど）。ちなみに、ニュースレター第 1 号へのリンクは[こちら](#)です。

ニュースレター編集担当：西洋（阪南大学）